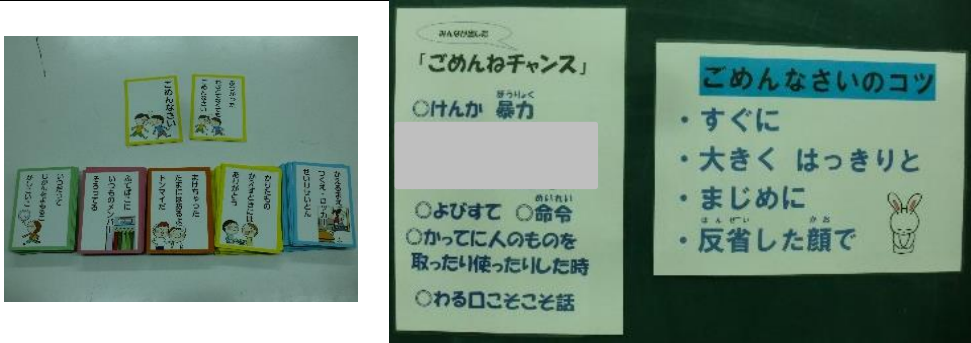


教材・支援機器活用実践事例

【対人関係に課題のある子どもに対する指導・支援の工夫】

子どもについて	学校・学級	小学校 自閉症・情緒障がい学級 及び 通常の学級
	対象の障がい	ADHD 自閉症スペクトラム LD 等
	授業形態	集団
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○ 自閉症・情緒障がい特別支援学級が新設になった。通常の学級にも支援が必要な児童が多数在籍している。学習規律や基本的な生活習慣が身に付いていなかったり、自分の思いが強く、友だちとのトラブルが多かったりする。トラブル後も、行動の振り返りができず、お互いの納得の上での解決がなかなかできない。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	①ソーシャルスキルかるた（市販） ②ごめんねチャンスカード 
	活用のねらい	① 学校生活、社会生活で必要な行動規範について遊びを通して意識し、身に付けることができる。 ② トラブルとなる場面や謝る際のポイントをカードで視覚化し、「ごめんね」と謝る状況を意識させることができる。
授業における支援 ・教材の配慮事項		①ソーシャルスキルかるた <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立活動の導入や朝の会などで短時間に集中して活用する。 ・ 学習規律、社会生活、学校生活、対人関係、挨拶、の5項目からその時の課題によって行う。 ・ 事前にルールを確認し、慣れてきたら児童に読み札を読ませたり、取り札を取った児童に復唱させたりするなどしてバリエーションをつけながら継続する。 ②ごめんねチャンスカード <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手にされて嫌なことを児童同士で出し合い確認する。 ・ 取り外せるように掲示し、トラブルの場面で児童に提示して確認する。
子どもの変容や評価		① 初めは、「めんどくさい」「なんでやらなきゃならないの」などの否定的な受け取りだったが、ゲームとして行うことで「またやりたい」と自分達で準備するようになった。また、「〇〇〇はだめだよね」「〇〇〇するんだよね」とかるたのフレーズを口にしたり、マナーやルールについて意識したりして正しい行動が身に付いてきた。 ② 謝らなければならない状況と謝り方を確認していることで、お互い納得しながら素直に「ごめんね」と謝れる場面が増えてきた。相手にされて嫌なことは自分もしてはいけないという視点の変換ができるようになった。